（別紙4）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1072400342		
法人名	有限会社ドリームサトウ		
事業所名	グループホームもみじの里		
所在地	群馬県富岡市妙義町上高田660-1		
自己評価作成日	令和6年3月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町１３－１２
訪問調査日	令和6年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は、日本三大奇勝の一つに数えられる妙義山の東に位置し、四季折々の草花や木々に囲まれ、自然豊かな環境で、入居者や家族の方々に大変喜ばれています。コロナ禍だったということもあり、バスハイクやボランティアの慰問は控えざるを得ない状況ではありますが、童謡や昔話などで思い出に浸り語り合うことで、笑顔や楽しみを増やしています。又、先に述べたレクリエーションができない分、ゆっくりと入浴していただく時間を設け、そこでも昔話や本人の希望などを聞いて、一人一人に寄り添った介助ができるようにしています。現在は90歳以上の入居者様が多いので、昔懐かしいおっきりこみやすいとん、おやきなどを提供したり、地域の方々からいただいた取れたての野菜をふんだんに使用した料理をその人の好みや体調、食事形態に合わせて三食手作りしたりしています。健康管理においては、月1回の往診に加え、近隣の病院や訪問看護、事業所の看護師が医師と連携して、健康状態を定期的に確認しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

入居時に「アセスメント記録」でその人の生活歴や気質・癖などを記載していただき、そうした背景をもとに、利用者の思いを推測し支援にあたっている。居場所や趣味など日々の過ごし方から、話題なども、利用者の思いに沿って行われている。その他、歌や体操などを行い、たのしみながら鍛えたり、活性化したりの機会を作っている。食事は、職員が3食手作りで提供しており、見た目でもたのしめるように彩りに配慮している。また、利用者が好きなふかし芋や塩ゆでしたじゃがいもなどを提供したり、ふきの皮むきなど参画できる機会づくりをしたりして、食事がたのしめるようにしている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を朝の申し送りのときに再確認し、利用者と職員が共に笑顔で落ち着きのある生活が送れるように努めている。また、ホール内にも掲示し、職員がいつでも確認できるようにしている。	申し送りなどで利用者支援について話し合う時には、理念である「利用者と職員が共に笑顔」をベースとして話し合っている。施設長は、職員の笑顔が利用者の笑顔につながると考えており、職員の笑顔を引き出すために、働きやすい職場環境を整えている。現在、理念の言葉の意味について共通認識を図る機会はない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は、地域の人達にチラシや文章で知らせ、催し物（歌や踊り等の慰問、施設のお祭り）の参加を呼び掛けていたが、コロナ禍は過ぎつつあるも、できていない。様子をみつつ、少しずつ以前のようにしていきたい考えでいる。	地域の方からの野菜などの差し入れがある。自治会に加入しており、施設長は区長との関わりもある。理念にある「地域の方が自然を足を運ぶような」施設にむけて、今後感染対策を講じながら、地域との交流を再開したい意向がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話相談等の際に認知症について心配なことがある時は、「気兼ねなく相談してください」と呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族には利用者のホームでの生活状況を必要に応じて報告し、家族の意見や希望を聞き、それを状況に応じて反映できるようにしている。コロナ禍だったため、運営推進会議を設けることができなかったが、徐々に過ぎつつあるので、以前のような会議を持つか代替できるものにするか検討している。	運営推進会議は開催しておらず、市の助言もあり、書面開催も含めて開催にむけて検討している。今後開催した場合には、事業所の運営を報告し、地域の方とともに事業所での野菜づくりなど地域との関わりを話し合う、双方的な会議となるような開催方法を模索している。	運営推進会議を開催もしくは書面開催することで、事業所の実践を報告し、そこでの意見を活かした取り組みにつながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の窓口に出向く際、事業所の空き情報や職員体制の現状などを伝え、相談している。その際、意見や希望を述べ、助言や指導を仰いでいる。書類や介護保険更新書類を持参し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	毎月、活動報告を市に持参して提出することで、関わりを作る努力をしている。また、運営推進会議の開催方法について・困難事例の受け入れの相談が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを宣言し、玄関にその内容を掲示している。朝夕の申し送り時を利用して、職員全体が身体拘束の意義を理解した上で拘束しないケアを実践するよう、日頃から話し合い、その方法を模索している。	身体拘束をしないこと宣言し、身体拘束ゼロの手引きをファイルして、危険を回避するため、職員間で連携して声をかけあいホールには必ず目が行き届くようにしている。研修会は開催しておらず、その時々でスピーチロックについての注意喚起や新聞の切り抜きなどで情報共有を図っており、今後の開催を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について学び、職員全体が言葉遣いにも配慮し、行動言動を含めた虐待を起こさない施設になるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員それぞれが学ぶ機会を持って関係者と話し合い、必要な人が制度を活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時文章を渡し、それに沿って口頭でも十分説明を行い、本人及び家族に理解していただき、納得の上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料の支払いやおむつやパット等を持ってきていただく際に利用者の様子を伝え、意見や要望等を聞いている。不満や苦情、デリケートな話がある場合には、落ち着いた環境で丁寧に詳しく話を聞き、管理者と職員が話し合い今後の運営に反映させている。	利用料支払いの機会を家族と会える機会として、利用者の状況を伝えながら意見を聞いているが、運営に関する意見はあがっていない。疑問は寄せられ、丁寧に説明をして理解につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝夕の申し送り時を利用して、職員から意見や要望を出してもらい、話し合いをし解決している。また、申し送りノートを活用して、職員全体が共有できるようにしている。	職員会議は開催せず、日常業務のなかで職員から設備（シャワーの修理・カーテンの交換）についての要望などを聞き、できるだけ早く対応して働きやすい環境を整えている。施設長は、職員から教えてもらうことがあると、職員を大切に考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段からつぶさに職員とコミュニケーションをとり、希望や考え方を聞くようにしている。向上心を持って働けるような環境や条件を整えられるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議ではテーマを基に勉強会を行うようにしている。外部研修を受ける機会を確保するように努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や研修会に参加して、情報交換等を通じてサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者は、新しい環境に不安や心細さを感じている。親身になって接することにより、その不安が少しでも軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、寄り添いながらいつでも快く対応できるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族が一番必要としている支援を見極め、様々な角度からのサービス利用も紹介し、ご自身に決断していただくよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の楽しみや趣味、思い出など、日々の生活を通して喜怒哀楽を共に共有できるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の生活の様子や健康状態、心配事などを報告し、協力し合い、一緒に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、面会が制限されている為、電話や手紙、窓越しの面会など、その関係性が希薄にならないように支援している。	家族や親戚の面会では、認識が難しい場合には職員が介入してから会って頂くなど、関係が継続できるように配慮している。その人の大切にしているものの話題をして饒舌になったり、好きな編み物をしていただいたり、話題や趣味が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌や工作、体操やボール遊びやぬりえなど、一人ひとりの身体状況に合わせて行うことで、利用者同士が関わり合い楽しめるような支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に悩みや心配事があれば、いつでも声をかけていただくように伝え、退所後の相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけをし、信頼関係を築き、その思いに少しでも近づけるようにする。	入居時に「アセスメント記録」でその人の生活歴や気質・癖などを記載していただき、そうした背景をもとに、利用者の思いを推測し、その思いを最優先して対応している。入浴時などの個別支援の機会を捉えて、普段聞けないことを聞くなど、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、利用者本人や家族から、居間までの生活や暮らし方、こだわりなどを詳しく聞き、できるだけ環境を変えないようなサービス利用につながるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の心身状況や身体状況など、細かく観察記録し、現状の把握に努めている。利用者本人の有する力も見落とさないよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望を基に日々の様子を把握し、（朝の申し送り時や現場スタッフからの報告などを通して）検討し、介護計画をたてている。又、月末にはモニタリングを実施し、介護計画の見直しを実践している。	会議は設けずに日々申し送りなどで情報共有と話し合いを行い、そうした内容をもとに、介護計画作成・モニタリングの材料としている。今後、介護計画とそれに基づいた日々の記録・モニタリング様式が連動したものとなるよう検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容、気づきや工夫を細かく記録し、常に職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、職員間で話し合い、ケアの方向性を検討し、支援していけるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、社協、包括等の行政や、ボランティア、警察、消防等と必要とされる情報を共有し、利用者が安心して生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の日々の身体状況を把握し、主治医と連携し、必要があれば訪問看護を利用し、異常の早期発見や現状維持に努めている。	入居時に、事業所の協力医による月1回の訪問診療について説明し、希望にそってかかりつけ医を決めている。利用者の健康状態や家族の希望で、月1回の訪問看護の利用につなげて、医療面でのサポート体制を作っている。できるだけ、眠剤など薬を減らせるよう、昼間の活動や入浴などで生活リズムを作っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で気づいたことや利用者様の状態を看護職員や主治医、訪問看護に伝え、相談している。職員間の申し送りや話し合いを重視し、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、病状、既往歴、内服薬等の情報を関係医療機関へ伝える。又、退院される際には、情報共有を受け、適切な看護、介護ができきるように連携していく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の悪化や何らかの原因で食事摂取等ができなくなった段階を利用者や家族と早期の時点で話し合い、当施設でできることを伝え、希望により、看取りに向けた支援を行う。	職員は利用者の生活に寄り添いたいという気持ちから、これまでに多くの看取りを実施しており、「重度化した場合における対応の指針」を作成している。入居時に、「急変時対応についての意思確認書」を記載していただき、口から摂取が難しくなるなど重度化した場合には、具体的に説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居契約時に、緊急時・事故発生時の対応等を説明し、ご家族の理解を得られるように努めている。主治医や訪問看護との連携を密にとるよう心がけ実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導の下、年1回は地域の消防団も訓練に参加し、火災訓練・通報訓練・避難訓練を行うこととなっているが、コロナ禍を過ぎつつあるので、施設内で全職員が災害時に適切な動きができるように訓練の予定を立てている。	避難訓練は行っておらず、実施を予定している。過去の実施を踏まえ、消防署や地域の方に事業所内の様子（避難経路・避難先・利用者など）を知ってもらい、地域の方には具体的な見守りなどの役割を想定した訓練を計画し、利用者が避難できる方法を見につける考えがある。	今後計画している避難訓練を実施することで、避難できる方法を職員が身につけることや課題を検討する機会につながることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の気持ちを持って対応している。トイレ誘導の際や排泄に失敗した時は、言葉遣いに気をつけ接している。	利用者は目上の方であるという認識のもとで、堅苦しい声掛けではなく笑顔が引き出せる親しみある声かけを心がけている。していた仕事についてなど誇りにしていた話題をだしたり、傾聴したりして、尊敬の気持ちを持って対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を聞いて、なるべく思いが実現できるよう寄り添い手助けを行っていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースやどのようにその日を過ごしたいかをはやいうちにくみ取り、利用者の意に沿った支援をしていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の多い施設なので、髪のセット・散髪・爪のお手入れは大切な時間としている。洋服も本人の希望を聞き、好きな服を着ることができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	近所の農家の方からいただく季節の野菜を使い、その方に適した量や好み、体調を鑑みて職員が三食手作りを基本手している。時には利用者の希望を聞き、お弁当やお惣菜を取り入れている。	食べることは楽しみであるので、職員が3食手作りで提供しており、見た目でもたのしめるように彩りに配慮している。利用者が好きなふかし芋や塩ゆでしたじゃがいもなどを提供したり、今後は畑でじゃがいもや夏野菜の収穫再開を予定しており、ふきの皮むきなど参画できる機会づくりもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量と食事摂取量をそれぞれチェック表にして支援に当たっている。不足の時は、その都度、補う工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、利用者本人にできるだけ行っていただき、できない方には職員がサポートし仕上げを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレで排泄できるよう、日々テレビ体操、手足首の運動を無理なく音楽に合わせて行っている。個々の排泄のリズムを把握し、トイレ誘導を行っている。又、立位困難の方には、二人体制で介助に当たり、気持ちよく排泄できるように支援している。現在オムツ使用の方には、時間ごとに陰部洗浄を行い清潔保持を配慮している。快適な生活が送れるよう支援している。	排便をすっきりできるように体操などをして、できるだけ薬を使わないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄のサイクルを理解し、きちんと排便を促せるよう日々の食習慣を大切に工夫している。便秘予防には、野菜、食物繊維（海藻、キノコ類）を含む食事と水分摂取を心がけ、牛乳、ヨーグルト、又、バナナ、みかん、キウイ等、フルーツデザートを提供している。排泄状況に応じた軽い運動、下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、入浴日を設定し、毎朝、バイタル測定を行い、顔色、体調観察を行う。入浴を楽しんでもらうため、職員と昔話をしたり、懐メロを歌ったりと笑顔をがみられるような支援をしている。又、入浴剤でゆず、しょうぶ湯等、四季折々の香りを感じられるよう心安らげるお風呂を提供している。	週2回の入浴日に、利用者全員の入浴を行っている。抵抗なく入浴できるように、何気なく風呂場に誘導したり、ゆずなどの他アロマオイルを使ったりして、気持ちよく入浴できるようにして、そうしたなかで利用者から初めて聞くエピソードもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調など考慮して、休息してもらっている。食後には、ソファで日向ぼっこしながら、気持ちよく休息している。室内の温度は快適に過ごせるようエアコンや換気等で調節し、天気の良い日はシーツ類の洗濯、布団を干したり安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用している薬の表をまとめ、わかりやすい場所に貼り確認している。又、利用者の個人ファイルに薬局が発行した薬の説明書をとじ込み、職員全員が確認できるよう工夫している。症状に変化が起きた時は、速やかに看護師やかかりつけ医に相談し、検討や指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、フェイスタオルたたみ等の家事や新聞折りを行っている。歌やパズル、折り紙やぬり絵、紙のお花作りをしながら昔話に花を咲かせ、笑ったり和んだりしながら気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナやインフルエンザ感染予防のため、ほとんど外出支援はできていない。	外出は行われておらず、今後、庭先でお茶会をしたり、以前のように外出の機会をつくり、閉塞感のない暮らしを提供したいと考えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、お金の紛失で不安やトラブルが発生しないように所持していない。ドライブでコンビニや道の駅に立ち寄った際には、希望に沿って利用者に少額の金額を渡して職員が寄り添いながら、買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次いだり、日常の生活を撮影した写真をはがきに印刷したりし、文字を書くことができる利用者には書いていただき、難しい方は代筆し送付したりして、利用者の気持ちに寄り添えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝日の当たる玄関にはソファーが置き、童謡や懐メロを流している。窓の外には、四季折々の草花が眺められる。食事後は、利用者の憩いの場になっており、昔話や歌を歌い過ごしている。トイレが汚れた際にはその都度清掃を行い、昼夜1回ずつ全体的に掃除をし、臭いがなく清潔であるよう心掛けている。誕生日会等の行事の写真や季節感のある飾りををホール内に貼ったりしており、天井は吹き抜け天窓で明るく心地よい場になっている。	室内に臭いがないように、昼夜1回の掃除の他換気、都度清掃することを心がけている。利用者が編んだ編み物や、職員が下絵したものに利用者が貼り絵をした作品などが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りを好む人や気の合った利用者同士が会話やレクリエーションを楽しめるようにテーブル席の配置を工夫している。で応戦の確保をしっかりと行い、ホール、玄関ソファー、居室を好きな時に好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、利用者本人が愛用されていた家具、小物、好みの衣類、写真を居室に備え付けたり、使い慣れた寝具を持ち込んだりして居心地よく過ごせるよう工夫している。日差しの強い季節になると、居室の窓の外にひよけとしてよしずを立てかけ、心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、環境変化による不安がないように持ち込みについて伝えているが、事情や家族の気持ちにも配慮しており、必要であれば事業所の物品を提供している。タンスや遺影など、利用者の大切なものが置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には、手すりが取り付けてある。ホール内に設置している家具は角が丸い物を選び、設置している。居室の入り口には動物や乗り物のネームプレート、大きな文字のトイレの案内等、分かりやすいよう工夫している。歩行や移動が安全にできるように、導線を考え空間を広くとる配慮をしている。		